

# 郡山市田村町田母神集落で挑む！

## イノシシSTOP大作戦！

活動期間：令和2年度～（継続中）

福島県

○郡山市田村町の地域は、イノシシによる農作物への被害が急増しているが、ほ場が点在していること、個人による非効率的な対策により、農作物の被害軽減に向けて思うように効果が上がっていないなどの問題があった。

○県中農林事務所では、周辺地区への波及効果も狙い令和2年度から田母神集落を地域ぐるみの対策を行うモデル地区に設定し、住民同士が協力して効率的な対策ができるよう誘導

○効果的な電気柵設置方法の検討を始め、濃密な巡回訪問活動、情報誌の作成、配布等により、住民の活動を支援

○これらの活動が効率的な対策につながり、被害が減少

### 具体的な成果

#### 1 住民の意欲の向上

■ 電気柵の導入面積が増加した。

① 電気柵導入面積（+26.9ha）

② 鳥獣対策をした人（51%→74%）

#### 2 効率的な電気柵設置

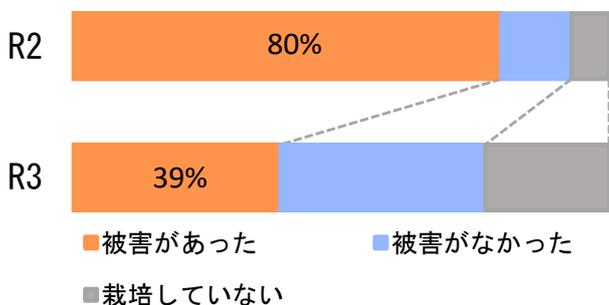
■ 住民同士が協力してまとまりのある電気柵設置計画を策定

① まとまりのあるブロックに集約  
（60筆→13ブロック）



#### 3 鳥獣被害の減少

■ 被害が大幅に減少



### 普及指導員の活動

【令和2年度】イノシシ対策の現状把握

■ アンケート調査の実施

- ・8割の住民が被害
- ・対策した人は約半数のみで消極的
- ・自己流の誤った対策の蔓延

【令和3年度】「地域を知る」「やってみる」「伝える」活動を展開

■ 「地域を知る」

- ・8日毎に現地訪問し、集落と連携強化

■ 「やってみる」

- ・専門家等の助言を受けつつ、ブロック毎の電気柵設置計画の作成支援
- ・集落環境診断の実施、電気柵設置実作業の支援
- （イノシシSTOP大作戦）を2回開催
- ・成果報告会（報告、今後の検討等）

■ 「伝える」

- ・情報誌「イノシシじいさん」による周知

### 普及指導員だからできたこと

・地域密着により、住民の目線に沿った活動ができ、成果につながった（地域密着力の発揮）。

・コーディネート力を発揮して、地域住民、専門家、郡山市との連携体制を構築し、地域住民のモチベーション向上につながった。

## 郡山市田村町田母神集落で挑む！ イノシシSTOP大作戦！

活動期間：令和2年度～（継続中）

### 1. 取組の背景

郡山市田村町の地域は、イノシシによる農作物への被害が近年急増していた。しかし、中山間地でもあり、ほ場が点在していることや、個々により始められた活動の中には非効率的な対策が多いこと等により、農作物被害低減に結びついていない状況となっていた。

管内の他地域においても、同様に農作物被害の低減に結びついていない事例が散見されることから、被害防止対策のモデル地区に設定し、重点的に被害防止対策を支援することとした。



図1 郡山市全図

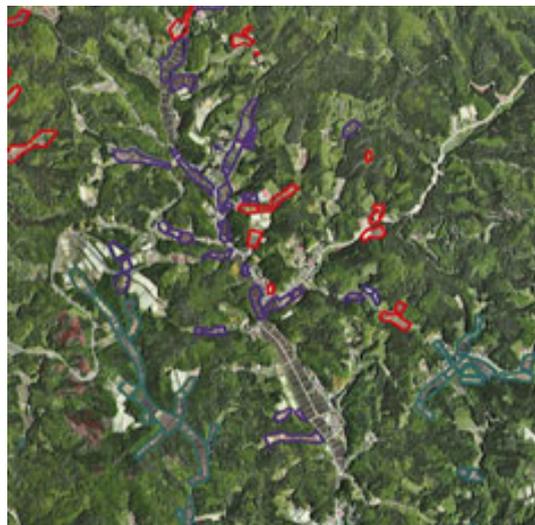


図2 点在するほ場

### 2. 活動内容（詳細）

【令和2年度】

#### (1) 住民アンケートによる課題の把握

- ・実に80%の人がイノシシ被害にあっていた。
- ・単独での対策では効果が上がらない等の不安感や高齢化等により、対策の実施に消極的な住民が多く、被害対策は50%の人しか行っていないかった。
- ・効率的な対策方法が分からないため、ネット、有刺鉄線、ひも柵など、個人による自己流の対策が多く行われ、効果が上がっていない様子が明らかとなった。

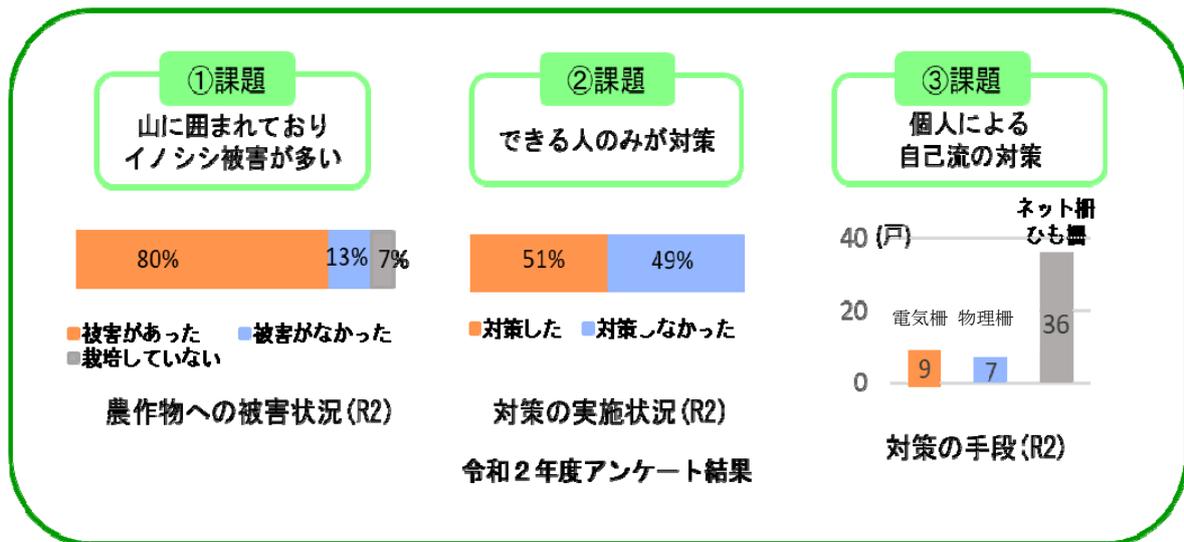


図3 対策実施前のアンケート結果

(2) 活動の方向性を検討

「住民同士が協力して効率的な対策ができるように誘導する」ために、普及のプロジェクトとして、どのように活動を展開するか？

→①考える、やってみる

選抜地区を選定するなどして重点化し、「ほ場一円での電気柵設置」を実践してみる。

②地域を知る、住民を知る

できる限り集落を訪れ、現状を把握する。目指すは集落全員と友達になる！

③伝える、伝わる

情報誌「イノシシじいさん」の力を借りて、住民全体に正しい対策が伝わるようにする。

【令和3年度】

(1) 集落訪問、現状の把握 (①地域を知る、住民を知る)

できる限り集約を訪れ、現状をより深く把握する活動を展開した。

→・センサーカメラによる鳥獣の出没状況の把握

(iPadですぐに状況をチェックして現地で戦略会議！)

・鳥獣対策のキーマン(リーダー的な住民、捕獲隊等)との情報交換

(2) 選抜地区の設定・対策の実践 (②やってみる、考える)

田母神集落内から、特に鳥獣被害が大きい地区(西庭・姉屋)を「イノシシ選抜地区」として重点支援対象に設定した。

→・被害状況の把握と集落環境診断の実施

・「第1回イノシシSTOP大作戦」=電気柵設置の協議、計画作成

・「第2回イノシシSTOP大作戦」=設置デモ～電気柵の設置

・設置後の状況確認チェック

・「イノシシSTOPできたかな成果報告会」=成果や改善点の確認、正確な電気柵設置者に対する表彰 等

(3) 情報誌による全戸周知 (③伝える、伝わる)

通称「イノシシじいさん」のキャラクターを作製し、親しみやすいじい言葉で情報提供に努めた。

→・親しみやすく、分かりやすい口調に努めた。

- ・集落環境診断により、鳥獣を呼び寄せていないかを検討、改善することの重要性を周知。
- ・ネット、有刺鉄線、ひも柵などは効果が無いばかりか、電気柵の効果をも低減させることなど、効率的な対策を啓発

図4 広報誌「イノシシじいさん 第8号」

3. 具体的な成果 (詳細)

(1) 住民同士が協力し、まとまりのある電気柵設置計画を策定

住民同士が相談し、合計60筆を13ブロックに集約し、効率的な対策につなげることができた。



図5 集約された電気柵実施計画図

(2) イノシシの被害対策の取組が増加した。

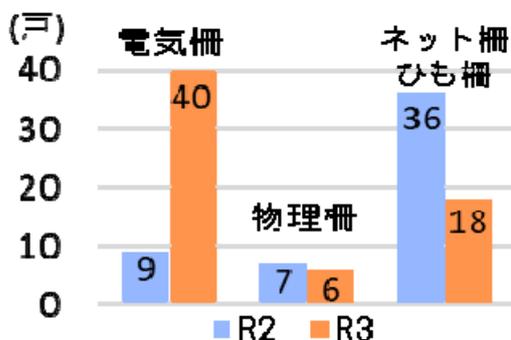


図6 電気柵の導入面積

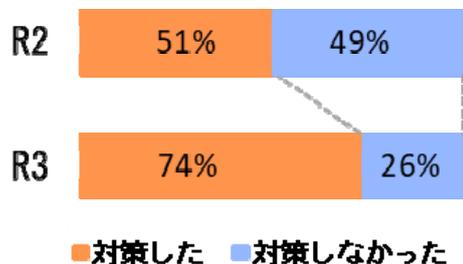


図7 鳥獣対策をした人の割合

(4) イノシシによる被害が半分以下に減少した。

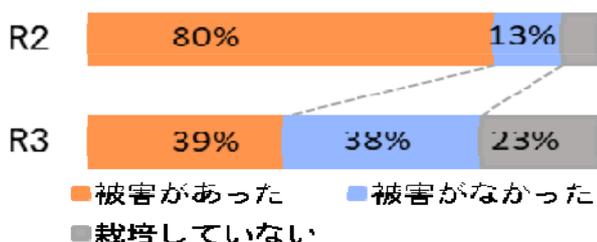


図8 イノシシ被害の状況

#### 4. 農家等からの評価・コメント（郡山市田村町田母神集落の住民）

事後アンケートの結果からは、今後の鳥獣被害対策を積極的に行いたい、という要望や、非農家からも鳥獣被害対策に対する関心が高まっていることがうかがえた。

- 「電気柵設置効果は大でありました。令和4年度はもっと面積を増やしてください。」（農家）
- ・ 「電気柵等による成果は、個々ではなく地域として全体で取り組んだ結果だと思います。」（非農家）

#### 5. 普及指導員のコメント（県中農林事務所農業振興普及部 主査 矢島清行）

農村における鳥獣被害対策は、農家や非農家の立場の違いや、高齢化に伴う対応意欲の減退等が問題となっている。このため、他の優良事例を参考としても、同様の対策を講じられない場合が多い。

今回は、非農家や高齢者など、積極的な対策を講じられない住民を抱えながらも、自分たちで継続的にできる対策を住民自らが考え、行動に移すことができた、という住民主体の取組そのものを成果ととらえられると、思っている。

る。

この過程において普及は、地域住民の目線でともに活動した地域密着力や、専門家や行政と連携したコーディネート機能を発揮してきた。私たちの活動は、単に数値的な成果に止まらず、住民自らが力強く取り組むためのモチベーションが維持されるよう努めるべきだと考えている。

## 6. 現状・今後の展開等

当該集落をモデルとした鳥獣被害対策支援については、令和4年度を最終年と位置づけている。このため、支援終了後も継続的に対策が講じられるよう、住民同士の連携強化を図るなどして自発的な活動を促す。

併せて、周辺地区に対して、モデル集落の成果を周知啓発するなどして、取組の波及拡大を目指す。